

綿谷 駒太郎さん



梅村 亮介さん



「知るはうれしい、学ぶは楽しい」を発信

社会教育士 ^{うめむら}梅村 ^{りょうすけ}亮介さん、^{わたに}綿谷 ^{こま たらう}駒太郎 さんの挑戦「ほうかごたいけん教室」



アート (フラワーアレンジメント)



サイエンス



しゃかい



たいけん パスポート づくり



先生も児童も、 みんなで 記念撮影

大学に勤める立入が丘小学校児童の保護者・梅村 亮介さんと、元東近江市地域おこし協力隊・綿谷 駒太郎さん、二人の社会教育士が一般社団法人 yourship を立ち上げて、子どもたちに学びの楽しさを知ってもらおうと「ほうかごたいけん教室」を始めました。

立入が丘小学校に見学 ほうかごたいけん教室

立入が丘小学校では、午前中で学校が終わる日の午後の校舎で体験イベント「ほうかごたいけん教室」が開かれています。昨年の夏休み前後の7月と9月に初めて開催され、冬休みの12月と1月にも行われました。先生役は、地域の人や企業、立命館守山高校のサイテック部の高校生だったこともありです。開催ごとに「料理(もちつき)」「チョークアート」「サイエンス」など2〜3種類の体験が用意されていて、子どもは自分がやってみたい教室に申し込んで参加します。体験の後は、楽しんで終わりでなく、体験を振り返った感想、大人からのコメント、参加証のかわいいシール、体験成果と一緒に撮影した写真などが記録できる「たいけんパスポート」を作ります。

社会教育に情熱を持つ 一般受講生が意気投合

社会教育士とは、学びを通じて「人づくり・つながりづくり・地域づくり」の役割を果たす人の称号です。大学に勤め教育分野に情熱を持ちながらも、教員免許がなかった梅村さんは、社会教育に強い感心を持ち、令和5年に講座を修了して社会教育士になりました。

行政や教諭など仕事の一端で受講する人が多い中、当時は梅村さんと綿谷さんだけが一般参加者として受講していたこともあって意気投合。人生と心を豊かにする社会教育をメインのフィールドにした yourship (あなたたらしさの意) という法人を立ち上げ、活動することになりました。

活動を始めてから県や市町の社会教育に関わるようになって、「体験格差」という言葉を聞きま

した。学校や塾の勉強とは違つ、子どもたちが体験を通して自分の「好き」や「楽しい」を知る学び

学校と地域、人、企業 「つなげて」子どもを育てる

梅村さんは「まずは、わが子の通う学校のために何かしたい」と考え、立入が丘小学校に相談したそうです。社会教育士として見ると、地域にも「学校や子どもたちのために何かしたい」と思う人がいたり、「地域の会社やお店のことを子どもたちに知ってほしい」と思ふ企業があったりしました。でも、身近なのに

学びから 「あなたたらしさ」に気付く 機会を広げたい

梅村さんと綿谷さんの「ほうかごたいけん教室」には、先生役の人だけでなく、スタッフとしても保護者や社会教育士仲間が手伝いに来てくれます。最初は立入が丘小学校の児童だけでしたが、ほかの小学校から参加する子どもも増えてきました。

学校と地域をつなぐ活動は、市内のほかの小学校にも広がり

梅村さんは「社会教育という大きなフィールドでなら学校と地域、学校と企業をつなげることができると」に気付きました。地域の人や企業が講師となり「好き」や「得意」を子どもたちに伝えることは、子どもにとってはもちろん、地域の人や企業にとつての学びになります。それが「ほうかごたいけん教室」の次の一歩でした。

はじめています。2月には、とうとう立入が丘小学校を飛び出して、守山小学校でPTAと連携して開催されました。

梅村さんと綿谷さんは「社会教育のフィールドを専門にする団体は、全国でも珍しいと聞いています。市内では『ほうかごたいけん教室』がメインですが、将来は、子どもだけでなく、誰もが学びや体験から、それぞれの「あなたたらしさ」に気付く社会の実現を目指して仲間や活動を広げていきたい」と話していました。